

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0790500037		
法人名	医療法人社団慈泉会		
事業所名	グループホーム南湖 1		
所在地	福島県白河市関辺引目橋33		
自己評価作成日	平成24年11月29日	評価結果市町村受理日	平成24年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人福島県介護支援専門員協会
所在地	福島県郡山市亀田二丁目19-14チャレンジビル2階
訪問調査日	平成24年12月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

周囲の自然環境にも恵まれ、買い物や外出の帰りに南湖公園の四季折々の景色に触れながら生活している。利用者の生き方に耳を傾けながら、一緒に暮らすパートナーとしての意識を持ち不安や不満にすぐに対応することで笑顔多い日々が送れるよう支援している。平均年齢も高く医療面の充実が課題であり、隣接するクリニックとの連携や地域医療の活用、家族との協同グループホームのできる事への限界を知り、多方面からの協力を受けながら利用者を支えていきたいと考えている。そのためのスタッフ育成にも力を入れ、外部研修への参加や、ホーム内研修に力を入れ、学びたい事を計画的に進められるように環境を作っている。個々の力をつけながらチームで支援する事を念頭に置き、利用者一人ひとりの思いが叶えられるよう取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設2年目であるが年2回の家族会は、全職員と入居者も参加し活発な話し合いが行われ家族との信頼関係が築かれている。この信頼関係を基に看取りの実践もあった。医療との連携により、胃瘻増設した入居者が経口摂取が行えるようになるなど職員の理念に基づいた高いケアが実践されていた。平均年齢が高い中でも、入居者一人一人が他の入居者を支える場面も見られ、それを支援する職員は施設理念を深く理解しパートナーとしての役割を十分理解しケアにあたっていた。入居者が他の入居者を気遣う場面が日常生活の中で当たり前のように行われていた。入居者の満面の笑顔が印象に残った。法人全体で行われる勉強会や施設独自の研修会により職員教育に力を入れている。管理者は、認知症理解の啓蒙活動を日常的に施設外に対しても行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の2つ目のグループホームとして、同じ理念を掲げ取り組んでいる。管理者や職員は常に理念を念頭に置き、話し合いの場でも理念に沿った意見交換ができるようすすめている。	地域密着型サービスの役割や意義を十分に理解し理念を掲げていた。経験値の高い管理者の指導により、職員一人一人が理念を理解し日常的なケアに活かしていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で行うひまわり花火大会、秋祭り、南湖クリニックでの盆祭りでは地域との交流を図っており多くの参加者で賑わっている。又年に4回程度発行する地域向けの広報誌では認知症やグループホームの理解を深めている	地区小学校の運動会に招待されたり、幼稚園児の訪問を受けている。年4回程度発行される広報誌は回覧板を利用し町内住民へ回覧をしている。町内会長の訪問も日常的にある。	法人の診療科目から地域の方々に、気軽に訪問して頂くことは難しいかと考える。今後も介護相談員等の訪問を足掛かりに地域交流の拡大が出来ることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症キャラバンメイトとして活動しており、講習会等で事業所での実践を通して多くの人に認知症の理解を深めてもらう活動を行っている。回覧板を利用した地域への広報活動も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当課長、地域包括支援センター、介護相談員、地域代表、家族代表で構成され、会議では利用者の様子をスライドを使って紹介したり、認知症の理解を深める為の意見交換などを行っている。	参加者から活発な意見が出されていた。利用者の様子をスライドを利用しサービスの実際の取組が理解されるような工夫があった。認知症に対する啓蒙活動も行われていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは認知症サポーター養成講座の講師派遣や介護相談員の受け入れ、運営推進会議の委員を通して信頼関係を築いており、運営上で問題が生じた場合には積極的に相談ができる関係を保つことが出来ている。	行政の依頼により介護相談員等の受け入れを行い、職員や入居者との交流が図られている。日常的に相談できる関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者を含め職員全体が身体拘束をすることの弊害を理解し、勉強会の開催で知識、技術の向上に努めている。日中の玄関の施錠を含め、日々の何気ないケアが拘束にあたらないかを常に検証するようにしている。	法人全体及び施設の勉強会において身体拘束への理解を深めている。落ち着いた入居者が居た時には、ミーティングにより状態の共有を図りケアの実践にあたっている。安定剤や向精神薬の減量や内服を中止できるケアの実践がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員に全体ミーティングやカンファレンスを通して知らず知らずに虐待になっていないかを確認している。勉強会を開催し虐待関連法の内容についても職員に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は利用者の中で成年後見制度を活用している方がいる為一通りの説明は行っているが、詳しく勉強会や研修会の参加はこれから開催していく予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時、利用前、利用開始時、と数回に分けてその時の疑問、不安点の確認作業を行い説明や理解を図れるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には日頃の様子を報告し気軽に会話ができる関係作りを行っている。家族会を開催することで、家族と職員の交流が深まるよう機会を作り意見が通りやすい環境を作っている。又運営推進会議においてご家族にホームの運営に携わって頂きながら理解がすすむよう働きかけてい	毎月家族へ通信を出し入居者の情報を伝えている。家族会時に入居者の昔の話や家族に現状を聞く機会を設け要望をすくい上げケアの見直しやケアプランに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度開催する全体ミーティングや申し送り等を利用し、職員の意見や要望が聞ける機会を設けている。主任者会議の内容を周知することで職員1人1人が法人の運営や管理に感心もち疑問点は管理者に話せるよう努めている。	管理者と職員が常に意見交換が行える環境であり、職員の気づきも取り入れられている。馴染みの関係に配慮された職員移動がなされ、移動してきた職員の不安に配慮した夜勤体制が取られていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活環境に配慮しパート等の雇用形態も採用しそれぞれの希望を取り入れた勤務形態を取っている。又上級資格を目指す職員に対し、勉強会を開催したり本人の希望や能力に合わせた仕事ができるよう面接を実施したり取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ホーム内での勉強会や法人全体の勉強会を開き職員の知識と技術の向上を目指している。又グループホーム連絡協議会が開催する講習会や各種研修にも職員が積極的に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、県南地区グループホーム協議会の会議、研修会を通して他の事業所との交流に努めている。管理者は県グループホーム協議会の運営委員を務め県内事業所全体の資質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には自宅を訪問し、本人からじっくり話を聞き、ニーズを把握できるよう努めている。また入居後には安心して暮らせるように、要望を生活に反映出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のニーズを引き出し反映出来るよう、電話などで積極的にコミュニケーションを図り、入居後の不安や心配事については面会時や月に1回の手紙などで、こまめに利用者の状況を報告するよう配慮し、安心して頂ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族のニーズについてスタッフ間でケアカンファレンスを行い、本人や家族の意向に沿ったケアを提供できるように心がけている。また同法人の他職種との連携により広い視野でのケアの提供、対応が出来るため、それを活用し支援につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活を送るパートナーの役割を担い、入居者を理解し信頼関係を築けるよう努め、その日その日が楽しく快適に暮らせるように、本人の気持ちに寄り添いながら支援している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の関係がよりよいものとなるよう、月に1回の手紙や面会時の状況報告を欠かさず行っている。必要時には家族からの協力を得て、共に入居者を支えて行く姿勢で信頼関係を築けるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物時などさりげなく本人ゆかりの道を連れ、昔なじみの場所を思い出してもらったり、昔からの行きつけの店に買い物に行き、店主と会話し懐かしんでもらったりと、なじみの場所や人物がいつまでも本人とつながっていけるよう支援している。	家族が友人を連れて来たり、入居を知った友人が訪ねてきたりしている。馴染みの場所を忘れてしまった入居者へ新たな馴染みの場所を作る援助をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活や活動をする上で、入居者同士の関係を良く観察し、スタッフが入居者同士の関係を把握。孤立する入居者が出ないように円滑な人間関係に導き、互いに友好を深め助け合いながら生活できるよう、また、良好な関係を保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在契約終了した方はいませんが、本人にとって、より良い生活がおくれるよう、今までの家族との関係性を断ち切ることなく、相談や支援に努めて行きたいと考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりがどう思いどんな暮らしを望んでいるのかを日々の生活の何気ない会話や行動から汲み取るよう心がけている。また困難な場合は家族やスタッフ同士が話し合い意向の把握に努めている。	お墓参りに行きたいという入居者の言葉から「誰と」に着目し家族と行きたいことを突き止め、家族と一緒に墓参が出来た事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや家族から話を伺ったり生活歴を元に日々の話の中から思い出話や世間話のするなどしながら知る努力に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神的な不安や健康面を考慮しながら残存機能の維持に努めている。またスタッフ同士が連携し情報を共有し必要な際はカンファレンスを行いその都度対応するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回モニタリングを行っている。新たな問題が出た際はすぐにカンファレンスを行ったり様子をこまめに記録に残し家族やスタッフを交え話し合いを会いをもち計画に反映している。	月1回職員全体で入居者に関してのカンファレンスが実施されていた。新たな課題については、その都度カンファレンスが行われ計画の見直しがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し体調や心身の変化などがあった場合すぐに対応できるようスタッフ同士情報を共有、必要があればカンファレンスを行い計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中でその都度生まれるニーズに合わせ家族やスタッフ、または隣接するクリニック等に相談し必要に応じ協力を得ながらサービスを提供できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療機関やスーパーなど利用者と共に向かい寄り慣れた地域での暮らしを楽しんでいる。又、回覧板をまわしてもらい置きに行くついでにホームの周りを散歩し自然に触れたり、近所の人に挨拶したり溶け込んで生活している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診はもとより、突発的に受診が必要になった時でも適切に治療を受けられるよう配慮している。どこの医療機関を受診するかなど家族や本人の希望を聞き希望に添えるよう対応できるように努力している。	本人や家族が希望する医療機関に受診が出来る。基本的に受診は家族対応であるが、緊急時等は、職員が対応をしている。受診結果については、その都度確認をし身体状況の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日常の情報交換、また、異常があった場合クリニック看護師に相談し適切な処置または受診に繋げられるよう連携をとっている。また、胃ろうの利用者に対し服薬をお願いしており、毎日ホームに来て情報の共有が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から利用者のかかりつけ医と良く話をしており、家族の思いやこちら側の意思を伝えることによって医師と方針を共有できるよう努力している。又、入院となったとき、早期の退院を目指し病院、家族、スタッフと連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体の機能が落ちている利用者についてこれから起こりえる状況を予測し家族やかかりつけ医、他機関と十分な話し合いを持ち、方針を決めている。それを全スタッフにも経過や決定事項を都度周知することに努めており皆で同じケアが出来るようにしている。	入居時より高齢の入居者が多いため、家族やかかりつけ医との連携や起こりうる状況について十分に説明をしている。終末期については、状態変化時その都度家族と話し合いを持っている。	高齢の入居者が多いため、重度化対応への職員の不安が強いが、今まで通りミーティング等で情報の共有化を図り、チーム支援を継続して欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内にAEDを設置しており、全スタッフが教育を受けている。又、勉強会の中で怪我や病気感染症について知識を深めており、対応の仕方や、連絡方法など確認しあえている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練という形では毎月災害時の避難方法を確認しあっている。その中でクリニックやディサービスとの連携により、安全かつ安心な方法を体験し災害に備えている。地域との協力体制という点では、自治会長さんに避難の難しさを理解してもらい、い	同法人で、貯水槽や米の備蓄があり非常時は共有できるシステムとなっている。避難訓練は、同一敷地内にある医療機関と合同で実施している。	来年度は、地区消防団の協力を受け実施したいとの話であった。実現し地域からの支援に繋がることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生き立ちや生きてきた過程を踏まえ、尊敬・敬いの気持ちを忘れず、本人のプライバシーや誇りを損ねる事のないような言葉かけや対応をしま日常の情報交換、また、異常があった場合クリニック看護師に相談し適切な処置または受診に繋がられる	一人一人の個性や想いを尊重したケアが日常的に行われていた。排泄への誘導や失敗時他の入居者に知られることなく援助できる環境や体制が出来ていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の生き立ちや生きてきた過程を踏まえ、尊敬・敬いの気持ちを忘れず、本人のプライバシーや誇りを損ねる事のないような言葉かけや対応をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共有スペースや居室で思い思いの時間を自由に過ごせるように声掛けや見守りを行い、また希望があればその都度話し合いながら、本人のペースに合わせ、毎日穏やかに過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選びは本人と共に、身だしなみも一緒に鏡を見ながら、本人の好きな様に整容出来るよう声掛け見守り、時には手伝い、気持ちよく一日を過ごして頂けるように支援している。髪型・毛染め・パーマなど本人の希望に添うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は利用者と職員と一緒に準備、食事をし片付けを行っている。また一緒に食事をする事で利用者の嗜好や食事形態を考える機会となる為、献立作成に役立てている。	男性入居者も含めて、食材の下ごしらえや盛り付け・片付けに積極的に入居者が関わる姿があった。職員と会話を楽しみながら食卓を囲んでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保出来るよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え献立作成し、一人一人の食事形態に合わせて食事を提供しているが、食事量や水分量が確保出来ない利用者には、補助食品の活用別メニューにて対応したりと、工夫しながら一日の摂取エネルギーを摂れる様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後自分で口腔ケアが出来る利用者には、声掛けにて促し見守りを行い、介助が必要な利用者には補助具を使用するなどし介助にて口腔ケアを実施。口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を記録し本人のパターンを確認。本人から訴えが乏しい場合にもサインを見逃さず声掛けしスムーズにトイレ誘導が出来るようにしている。本人の状態に合わせたパットやおムツ類の選択をしている	一人一人の排泄パターンの把握に努め、紙パンツ利用から綿パンツへ移行した入居者がいた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に胃ろうの方が今ではほぼ常食を摂取されるまでなれたので排便チェック表やスタッフ間の情報交換、夜間の状態を確認し便秘時の下剤のタイミングや適度な運動の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夕方になると家の心配、帰宅願望の訴えが強くなる方には好きな事、興味のある事など声かけし気分転換して頂き、5時ころ入浴の声かけし、一人でも入浴できますがスタッフは脱衣室に残り仕事をしながら話相手になり不安心配を和らげる等個々に合わせた対応中休まれると夜眠れない方、血圧安定の為短時間でも休息される方。個々の体調や生活のリズムに合わせ声かけをする。又、日光を浴びると夜寝むれると聞いた事があり、日向ぼっこや散歩などもすすめていきたい	入居者の在宅での入浴時間の把握を行い、入浴を提供していた。また、入居者の希望に合わせた時間帯にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	内服薬セットから内服するまでスタッフ三人のチェックと内服支援の際には名前といつの内服か声に出し確認の徹底。又、認知症の薬やその他の薬についてもケース記録やスタッフ間の情報交換などで細かい現在の様子観察をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃の会話やコミュニケーションなどからお一人お一人の趣味や興味があることなどを知り押し付けることはせず、本人の意見を伺いながら一緒に楽しむように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年に数回バスハイクなどを計画している。また、日常では毎日の食事の食材の買い物や、個人の希望で買い物などがあれば馴染みの店に出かけたり、食事をとりながら気分転換に外出したりと楽しむことが出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		日常的に利用者とともに食材の買い出しを行っている。入居者が希望する衣料店での買い物などへの支援も行われている。外食希望時等の対応もその都度行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人個人の力に合わせお金の管理を行っている。買い物で使用したお金を本人と共に小遣い帳へ記入している。自分で持てない場合は、小額を金庫にて保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各自担当が決まっており、大切な報告、相談、お知らせは必ず電話や手紙または、面会時に連絡している。年賀状や季節の挨拶の手紙など直筆で書いていただいたり、代筆などとして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間ではスタッフが間に入り混乱がないように対応している。また、季節毎に装飾やイベントを行い季節を感じ楽しめるように努めている。	共有空間にはテーブルや外の景色が観えるようにソファを配置するなど居心地の良い空間を作る工夫されていた。入居者も自室で過ごすことなく、全員が共有空間で過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係を重視し、利用者同士が談笑したり、皆で活動ができるように適宜スタッフが声かけする等している。また一人で過ごしたり、趣味の活動が行いたいときには周辺を整えて穏やかに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、仏壇などを部屋に置き、本人の希望によっては畳やカーペットを敷いている。また、花を生ける、好みのポスターや家族の写真を貼るなどそれぞれの趣味や個性を生かした生活空間を提供出来るように努めている。	入居者一人一人が生活スタイルに合わせ馴染みの家具等を持ち込み、自宅に近い状況での生活をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの現在の状況を把握し、必要に応じてカンファレンスや家族との連絡、連携を行い、家事や趣味など生活全般において出来るだけ自立して行うことが出来て、必要なときには介助を受け安全に過ごせるように努めている。		